



2014年6月18日

TFSP・WIA 東京実行委員会

菅原文太（代表）、安田喜憲、養老孟司、鎌田實、  
荒俣宏、木村秋則、高橋公、小島敏郎

**TFSPによるメディアと政策決定者のための  
「浸透性農薬世界的総合評価書（WIA）」研究成果発表会  
（プレスリリース）**

独立した科学者の国際チームである浸透性農薬タスクフォース（TFSP）は、ネオニコチノイドなどの浸透性農薬の影響等に関する科学的調査研究成果を「世界的総合評価書（WIA）」として取りまとめました。

つきましては、次の要領で、世界的総合評価書（WIA）の成果の発表・説明を行います。ご参加いただける方は、下記連絡先のメールアドレスまで、ご連絡下さい。

1. 日時 2014年6月26日（木曜日） 午後3時から5時まで
2. 場所 参議院議員会館 B-107 会議室
3. 議事次第
  - (1) 開会あいさつ 菅原文太氏
  - (2) ショートフィルム
  - (3) 世界的総合評価書（WIA）の説明（逐語通訳あり）
    - ① マルテン・ベイレフェルト・ヴァン・レクスモンド博士（TFSP 共同議長）
    - ② ロレンゾ・フルラン博士（TFSP 代替農業 WG 座長）
    - ③ エリザベス・ルマウイグ・ハイツマン氏（フィリピン TFSP メンバー）
    - ④ 山田敏郎氏（金沢大学名誉教授、TFSP メンバー）
    - ⑤ 平久美子氏（東京女子医科大学東医療センター、TFSP 公衆衛生 WG 座長）
  - (4) 質疑応答
  - (5) 閉会あいさつ 安田喜憲（やすだ・よしのり）東北大学大学院特任教授

**《連絡先》**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 6F  
TEL 03 - 5224 - 4588 FAX 03 - 5224 - 4589  
E-mail : fukuzoe@furusatokaiki.net

担当： 福添重幸（ふくぞえ・しげゆき）

**○背景説明**

※浸透性農薬タスクフォース（TFSP：The Task Force on Systemic Pesticides）は、国際自然保護連合（IUCN）の種の保存委員会と生態系管理委員会に助言する研究者集団

※「世界的総合評価書（WIA：Worldwide Integrated Assessment）」

※この企画は、一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストの「2014年度ネオニコチノイド系農薬に関する企画」助成を受けています。

## 《参考：用語解説》

### (1) 浸透性農薬

浸透性農薬とは、有効成分が、根や葉、茎、実など植物の表面から植物体内に吸収され、全体にいきわたる農薬です。浸透移行性農薬とも言います。ネオニコチノイド系殺虫剤とフィプロニルが主なものです。

### (2) 神経毒性農薬

神経毒性のある農薬として、(1)有機塩素系、(2)有機リン系、(3)カーバメート系、(4)ピレスロイド系、(5)ネオニコチノイド系、(6)フィプロニルなどの殺虫剤のほか、アミノ酸系除草剤のグルホシネート（バスタ®）などがあります。これらのうち殺虫剤は、昆虫の神経機能をかく乱して効果をおよぼしますが、神経の基本構造は昆虫とヒトで同じであるため、ヒトにも害をおよぼすことがあります。神経毒性農薬は、胎児や子どもの神経発達への悪影響、すなわち神経発達毒性があることが近年明らかにされています。

### (3) ネオニコチノイド系殺虫剤（ネオニコチノイド）とフィプロニル

ネオニコチノイドは、ニコチンのように神経に働き、神経伝達物質アセチルコリンの正常な働きを阻害します。日本では以下の7種類が使われています。名称（代表的な製品：製造メーカー）は以下のとおりです。①イミダクロプリド（アドマイヤー®：日本バイエル）、②アセタミプリド（モスピラン®：日本曹達・日本農薬）③ニテンピラム（ベストガード®：武田薬品）、④チアクロプリド（バリアード®：日本バイエル）、⑤チアメトキサム（アクタラ®：シンジェンタ）、⑥クロチアニジン（ダントツ®：武田薬品）、⑦ジノテフラン（スタークル®：三井化学、アルバリン®：アグロカネショウ）。フィプロニル（プリンス®：日本バイエル）はフェニルピラゾール系殺虫剤で、ネオニコチノイドと違って神経伝達物質 GABA の働きを阻害しますが、様々な点でネオニコチノイドに似た特徴をもっています。

#### ○使用状況

ともに少量で害虫駆除に劇的効果があり、日本では、特に水田に多く使われ、農業者だけでなく、家庭園芸を楽しむ市民にも広く利用されています。ゴルフ場の芝の消毒、住宅建材のシロアリ防除、ゴキブリ退治やペットのノミ・ダニ駆除等にも商品化されています。このほかネオニコチノイドは、種子消毒、松枯れ防除にも使われています。

#### ○特徴（水溶性、浸透性、残効性）

ともに水溶性で植物によく浸透し、長い間効力を発揮します。いったん土壌や池や川の水の中に入ると数ヶ月から数年の間ずっと無毒化されないことがあり、繰り返し使うと環境中に蓄積増加していくこともあります。

#### ○影響（生態影響、健康影響）

ともにミツバチの大量死、蜂群崩壊、鳥類や水中無脊椎動物の減少などの生態影響が疑われ調査研究されてきました。ヒトへの健康影響も疑われ、研究が続けられています。

#### ○規制の状況

EU では 2013 年末から、ミツバチが集まる作物や穀物への使用禁止、農地以外の家庭菜園には使用禁止などを内容とするネオニコチノイド 3 種（クロチアニジン、イミダクロプリド、チアメトキサム）とフィプロニルの暫定使用規制（2 年以内に見直し）が始まりました。日本では、まだ規制措置は講じられていません。